

## 「次世代のために公共施設のあり方を考える」シンポジウム実施報告について

平成29年9月23日（祝・土）に開催した「次世代のために公共施設のあり方を考える」シンポジウムの結果についての概要は以下のとおりとなります。

1 参加人数 128名

### 2 実施内容

#### (1) 現状説明

##### 「矢板市の公共施設の現状と課題」

矢板市の公共施設の現状と現在策定を進めている「矢板市公共施設再配置計画」の計画骨子の説明を実施。

#### (2) 基調講演

##### 「人口減少社会の中での公共施設」

宇都宮大学教育学部まちづくり研究室 陣内雄次教授

- ・現在は予測不可能な時代である。しかし、人口減少社会の到来は確実に予測できる。現在の街は、人口拡張時代にできたもので、今後の時代に合わなくなってきている。
- ・今後到来する人口減少社会を見据え、30年、40年後の矢板市のビジョンを持って、街づくり・公共施設のあり方を考えていかなければならない。
- ・公共施設は、年と共に老朽化していく。長寿命化を図るのか、無くすのか、それとも縮小するのか判断していかなければならない。
- ・今回の公共施設の再配置について、問題として捉えるのではなく、チャンスとして捉え、より良いまちづくりを進める手段として考え、より良い選択をしていく必要がある。
- ・市民もすべて行政に任せするのではなく、自分事として考え行動していく必要がある。
- ・将来施設を使っていくのは若い世代の人たちであり、若い人達の意見を積極的に取り入れ、行政、市民が協働して計画を進めていく必要がある。

#### (3) パネルディスカッション

##### 「次世代のために公共施設のあり方を考える」

コーディネーター 宇都宮大学教育学部 陣内雄次教授

パネリスト 矢板市公共施設再配置計画策定委員 4名

公共施設の今後のあり方、まちづくりを進める上での公共施設のあり方、市民を含めた今後のまちづくりと公共施設再編について、各委員から意見をいただいた。

- ・30年間で40%の公共施設を削減するという非常に厳しい目標を進めていかなければならない。実施にあたってはスピード感を持って進めていかなければならない。
- ・学校等の特殊な施設については、決まった判断基準で一元的に統廃合等を決めていくことに対し馴染まないものもあり、よく精査していく必要がある。

- ・アセットマネジメント等、施設の利活用等を考えるとともに、時代によって変わっていく市民ニーズに対応していくために、新しい付加価値をつけていく必要がある。
- ・将来の矢板市をどうしていくかランドデザインを描きながら、公共施設のあり方について考えていく必要があり、若者やよそ者にも入って貰って進めていく必要がある。
- ・将来のまちのあり方として、コンパクトシティの実現。集約化された中での生活環境の構築も必要であるとする。
- ・公共施設の再配置を進めるにあたっては、明確なビジョンを持って進めていかなければならない。また、強いリーダーシップのもと進めていかなければ実現しない。
- ・市民自身もこの問題に危機感を持ち、自分のこととして捉え、協力しながら計画を進めていく必要がある。
- ・計画に関し、広く情報を発信していく必要がある。特に、削減率40%について、なぜ40%なのか、具体的に情報を発信し理解を得る必要がある。

#### 会場からの意見

- ・矢板市の小中学校数は近隣市町と比較して非常に多く、現在の危機的状況から学校の統廃合もタブーの領域ではない。例えば学校を減らしても生徒、保護者、地域の教育環境が整っていれば、教育の成果は達成できると考える。今回の再配置計画において、学校の削減ができないのであれば、今後、矢板市は財政破たんをきたすと考える。
- ・市営住宅の近くに住んでいるが、入居者が非常に少ない。統廃合を進めるには、利用者数を重視し計画を進めていただきたい。
- ・スピード感が重要であるとする。計画期間の30年は非常に長く、5年後、10年後には情勢はどんどん変わっていく。5年、10年で計画を立て、その度にこのようなシンポジウムを開いて総括をしていった方がよい。また、コンパクトシティ化の話が挙げられたが、駅東に広大な土地があるがそれを核とした事業展開は出来ないか。